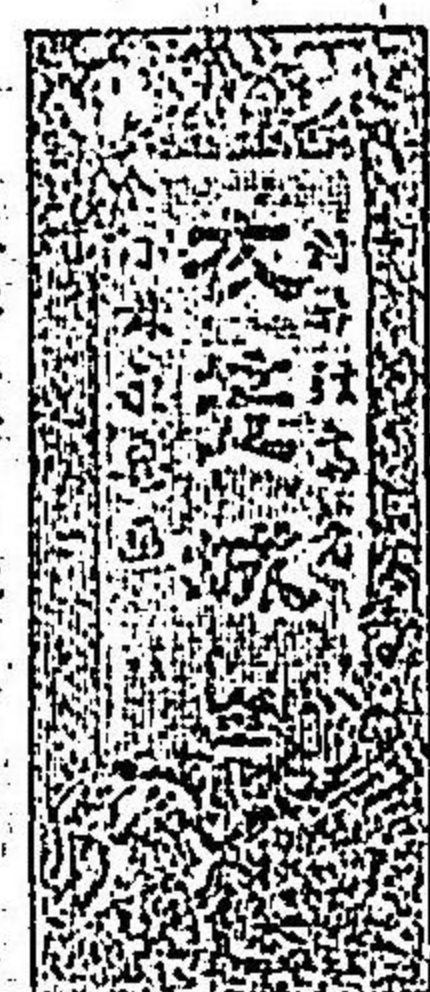




錦の舞衣 三遊亭圓朝作 武内桂舟書 實價廿五錢 郵税六錢

は朝朝子が一世的佳作にして、天明寛政文化文政
天保弘化時代の技藝家達の逸話より有名なる書
害工狂歌師及作者等の傳記を口演したるもの
して、忽ちにして、酒井の囃子、忽ちにして美人
花に泣くもの趣あり、殊に酒井の囃子が熱なる
に、其巧みなる辨舌を聴くに異ならざるべし。



衣笠城 村井岐齋著 小林永興書 實價三十錢 郵税六錢

夏草やつはもの 國亡ひて山河あり、衣笠山の峰の月は轉た三浦家
の昔を懐かしむ、源平の興亡の無業、忠臣節
婦、勇士、智將驚くべく喜ぶべきの事跡を収めて此
一書にあり、今や王師外に捷つて、先天的武揚の
由來するを知らん。



暹の 忍月居士作 武内桂舟書 實價三十錢 郵税六錢

暹に二種あり、一は天女ウラニヤの司る所にして純潔無垢の美愛
なり、一は地神ボリヒムニヤの司る所にして歐情歐韻を源すの
肉情なり、方今の世神楽なる者皆ボリヒムニヤの源なり、
即ち天女の如き女優市川如荷、是等の歌謡に附録されて、
絶度其爪牙にけられんとす、然し神楽なる節操は終に素
め、事なき、其境の悲愴可憐なる物語は、能く讀者をして泣
め、怒らしめんとす、若し夫能く此書を熟讀すれば、又一種の
鏡なる事を知るべし。

臥待月

臥待月は南翠外史が著す所、當代の紳士令嬢の
情交を描き盡して、後庭春暖く高緩かにうたふ。

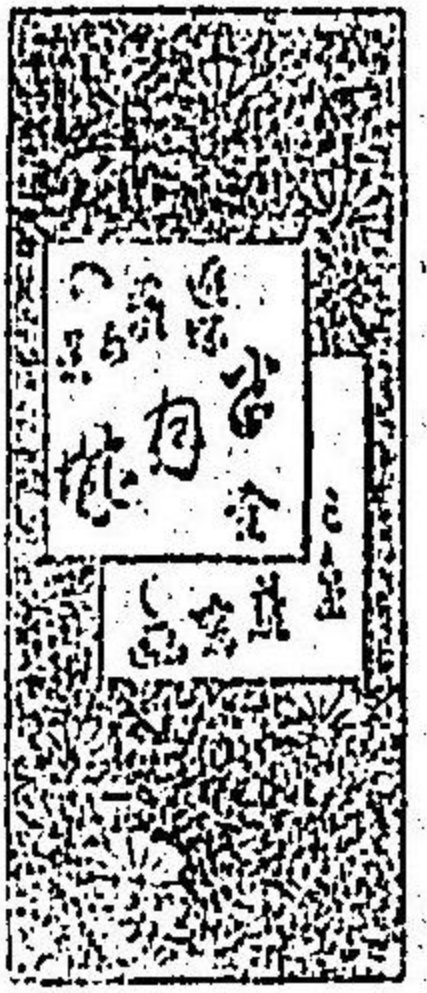
關中政治家

關中政治家 聚芳十種の内 原抱一書 實價四十錢 郵税四錢 版
慷慨悲憤の士あり、時を慨し世を憂ひ、一身を犠
牲として蒼生を救はんとす、其行や神の如く、清
麗白義俠男子の熱血は巻中に漫々たり。



荒海一實 南翠外史著 久保田米仙書 實價三十錢 郵税六錢

に海外に航し、非凡なる冒險事業に名を轟かした
る偉丈夫なり、然して本書は須藤南翠君が、其優
美麗なる筆を以て、言文一致の一致にのみされたる
ものなれば、荷しくも小説の一端をだに讀みし人
は、いかで此荒海一實を讀まざる事やある。



半月城 暹塚麗水作 三島蕉窓書 實價三十錢 郵税六錢

征清の軍未だ央なる今日此の頃、巍然天際を凌い
でわはれ出し半月城は、古の奈良の都の片邊りな
る名なしの山に在りける古城なり、著者麗水氏一
年京都遊覧の雪に迷ひて、ゆくりなくも古竹林に
小橋公の墓に詣りて、其錦腸を衝いて溢れ出でたる
詩想を其後、半月城とは錦打ちたり、巻を結ばば
忽然として怪僧著はれ美人來り、忽にして勇士美
少年、殆んど讀者をして巻を捲くに忍びざらしむ、
然して一雪の西京なる附録は著者が當年節を彼
の地に曳きたるの時名所古跡を一掃の筆に收め
て、詞藻麗麗身其景に接するが如し古都の風物を
探らんとするの人ふ「雪の西京」は能く東道者た
らむ。

やたらとよ

やたらとよ 聚芳十種の内 山田美妙作 實價十錢 郵税二錢

題してやたらとよといふ、其題や奇なり、其骨子
豊奇ならずして可ならんや、美妙齋の着想は奇趣
天涯より來り、吾人の心腑を奪ふを以て得意なり
とす、其妙趣微妙なる、本書の如きは實に聚芳十
種中の白眉なるものとす。



夢 河尻實峯作 小林永興書 實價二十錢 郵税四錢

十七少年あり、暴風烈突つて國家に殉す、若松城外風雲の所
松林昔昔して、暴風烈突つて、白虎隊の所なり、乃父は
年長馬場徳助の間、臨風面を撫ち、白衣血を流して、乃父は
長刀を揮つて敵中に死し、其母は、強刀を執つて城外に作
るに、乃父は、紅顔の少年、遺恨何ぞ堪へん、決然相願みて
微笑するの所、風死して天泣いて万事休す。



野試合 文學世界の内 江見水陸作 郵税八錢

豊臣太閤裂封册 河實作 郵税四錢

豊臣太閤裂封册 河實作 郵税四錢

櫻庭全書 郵税八錢

野試合 郵税八錢

豊臣太閤裂封册 郵税四錢

豊臣太閤裂封册 郵税四錢

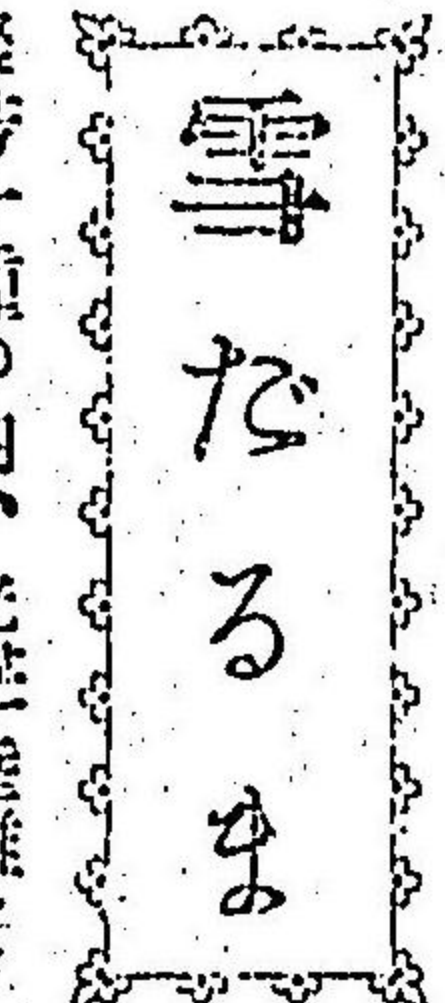


猿面冠者 文學世界の内 山田美作 郵税八錢

猿面冠者 文學世界の内 山田美作 郵税八錢

陣中日記 郵税六錢

陣中日記 郵税六錢



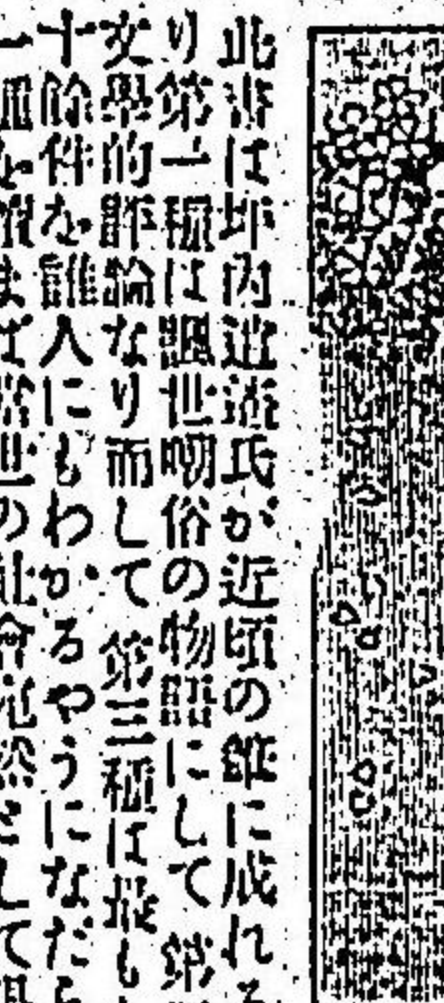
雪なるま 聚芳十種の内 郵税四錢

雪なるま 聚芳十種の内 郵税四錢

夜月朧 富岡永洗書 郵税八錢



鬼車 隔懸坊 郵税六錢



水沫集 森外作 郵税十六錢

雪なるま 聚芳十種の内 郵税四錢

夜月朧 郵税八錢

鬼車 郵税六錢

鬼車 郵税六錢

水沫集 郵税十六錢

水沫集 郵税十六錢

水沫集 郵税十六錢

水沫集 郵税十六錢

東京春陽堂發行書目之内二十二

書目中録
 第一觀音堂梅田源二郎
 第三好丈夫平野次郎
 第五双俠近藤正徳
 第七大福院下り僧月照
 第九古壯士木戸公忠
 第十無頼



維新傑談
 西村天四作
 實價三十錢

近世偉人傳

書目中人名録
 佐久間象山 渡邊 華山
 藤田東湖 堀山彦 九郎
 吉田松陰 高野 龍齋
 水戸黄檗 齊藤 樹三
 福原 越後 齋藤 三好
 梁川 星馬 藤本 坂本
 坂本 龍馬 小島 久本
 安部 貞貞 大橋 清川
 岩倉 具視 木戸 孝允
 諸公之傳也

西村天四作
 實價三十錢

東京春陽堂發行書目之内三十二

紅葉山人の小説は常に奇を求むることを爲さず、而も平地に波瀾を起して、坐上に鯨吼を龍躍の妙あり。本稿は其平生草を打ち蛇を驚かすの秘を授け、利刃一揮直ちに深淵に没し去りて、須臾波上に凝紅を浮ぶ風あり。其想は迅雷風烈、雨滂沱として老松忽ち摧け、其文は疎澹夜涼、點々として緩く度る。



紅葉山人の作、氏の文の妙なるは今説かずもあらなん、翠は江見水陸氏の筆にして音楽島の風景、辨天廟の樂器、唐琴浦の鯨魚、この三津島に遊蕩したる音楽師が、痴人の戀に同情を表したる詩篇なり。

紅葉水陸合作
 水野年方書
 實價三十錢
 郵税六錢

有詩人
 幸田露伴作
 渡邊省亭書
 定價六拾錢
 郵税六錢



葉末集
 露伴子作
 定價四拾錢
 郵税五錢



新葉集
 露伴子作
 定價四拾錢
 郵税五錢

葉末といひ、新葉末といふ、共にこれ露伴子の傑作にして、明治小説中の白眉なるものなり、抑も子の小説たるや、尋常作家の一夜作りにあらずして、深く紊亂なる社會を觀察し、深遠なる哲理を味ひたるものなれば、收むる處の對稱、奇男兒、一利那、眞美人、辻淨瑠璃、殿耳鐵砲、悉くこれ氏が理想を筆端に現はさざるはなし。

月の甲の招き
 子露伴作
 定價貳拾錢
 郵税四錢



子露伴の原江
 下野の原江
 戸紫の色香は初めに明治の傑作、小説家としての寸毫も軒慳なきを知るべし。

思ひあがり雲にまじりて遊べども世にのなる、糸の切れたる武部の刀目の歌より出でし、爪の評判、作は名高き竹の合主人が、後庭の竹を刺りなして骨となし、細工も主人が一手の遺緒なり、御子供衆の御恩みにて天下一品の佳作なるべし。



學園花
 園三島燕窓書
 實價二十五錢
 郵税六錢



深宵山山... 櫻楓架... 金中... 舟村... 居士

購湖爲情空に其も一せこれも疾大江に痛だ脚すんする... 購湖爲情空に其も一せこれも疾大江に痛だ脚すんする... 購湖爲情空に其も一せこれも疾大江に痛だ脚すんする...



戦事大探偵 長田偶得著 偵探大事 實價十五錢 郵税四錢

乳虎又嘯く。吾人其所以可なり。麗人之所、雲起り風生じ、



紅葉山 紅葉山人作 實價三十錢 郵税六錢

一痴漢一狂女の出没自在巧みに世態を觀察したる... 一痴漢一狂女の出没自在巧みに世態を觀察したる...



寫真術 村井並齋著 實價廿五錢 郵税四錢

萩と桔梗は全しく別である、萩の花は赤く、桔梗の花は大抵紫である、其所で連も眉も山人である、連も眉も作家である、然し其何れが赤くて、何れが紫かは、則ち讀者の見處である、但し色眼鏡は無用である。



萩と桔梗 連山人眉山合作 實價廿四錢 郵税四錢



花相模 青軒居士合作 實價二十錢 郵税四錢

彦子」の二編よりなる、作者は文壇に出で、より日未だ深からずと雖も、綺想妙案は敢て先進大家に及ばざらざることなし。

瓜太郎物語 全半紙木版摺美裝 二實價金四十錢 郵税六錢



智恵袋 菊版美本 實價二十錢 郵税四錢

同じく智恵袋なれども、本朝とは又其趣を異にしたり、歐米各國の洒落滑稽其面白き事驚へん力なし、殊に頓智の奇談にいたりては、本邦人の夢想にだもあらざる快話あり。



漂流之佳人 朝木版密書入 實價二十錢 郵税四錢

本書は古今の滑稽奇談をあつめて、春の夜のつれづれに刊したるものなれば、獨り自ら抱腹絶倒するに至るべし。

鉄道小説 鳴神組 子組 實價二八錢 郵税二錢



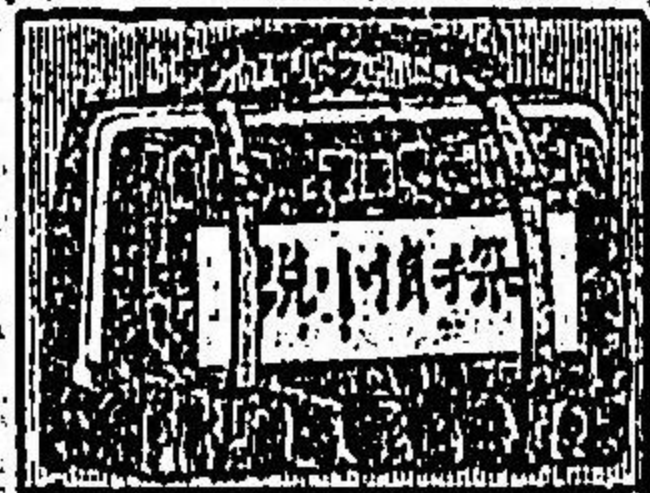
半紙木版摺彩色
表紙頗美本各一
冊讀切實價八錢
郵稅二錢宛

數錢の金に可憐大丈夫が便々たる腹割さばいたる
奇談を始めとして、古英雄の胸腹を刺りたる猿面
冠者の快よき、かた系辻占賣の哀れに悲しき、か
くれんぼの不思議なるは正太夫が洒落の筆にな
り、野試合の勇ましきは水陸子の健筆に依つて描
かれぬ、ひつじかひは牧童の可憐なるを寫したる
松華菴の理想殆んど神に通じ、今深雪の哀れなる
は雪に暮れ行く漁村の寂しきが如く、乙羽菴のお
もひ川、山友子の神も佛も及び柳浪子のいとし兒
の三編は筆力勇健にして天馬の空に騰るが如く、
又嬌娥の蒼穹に轟むるの情趣あり。

- 第一 紅葉作命の安賣 全一冊 讀切
- 第二 山人作 猿面冠者 全一冊 讀切
- 第三 妙齋作 かくし妻 全一冊 讀切

幼稚園

本編は巻を逐つて逐次發行するものにして小學
意諸君の教師たり朋友たるものにして小學
べき良書なれば一枚置きに
も平易簡潔を尊び學
校用又は家庭用の
適切なる事書を俟た
唯も實に此幼稚園に勝るの良書あらざるべし。



從一第
全一冊
讀切

立案新奇にして能く人
の意表に出で、讀者を
して愕然、惘然、愕然、
呆然、身其の境に在り
て、心其の局に迷ふが
如くならしむるは探偵
小説に如くものなし。方今感情的小説の流行太甚
だしく、事實的小説全く形を斂めてより、世間人
心を活殺する底奇譚に渴すること久し。此の書は
専ら遺般の需要に供せんが爲に、特に脚色の奇絶
妙絶拍案三嘆に堪ふべきものを粹撰し、平易の文
章を以て自在に亂麻の活劇を描き去り、毎號一卷

幼稚園 四六版美本
實價各七錢

- 第四 巖谷 辻占 全一冊 讀切
- 第五 忍月 占 全一冊 讀切
- 第六 正直 かくれん 全一冊 讀切
- 第七 江見 野試 全一冊 讀切
- 第八 水藤 野試 全一冊 讀切
- 第九 松華菴 今みゆ 全一冊 讀切
- 第十 金子 今みゆ 全一冊 讀切
- 第十一 春夢 今みゆ 全一冊 讀切
- 第十二 乙羽菴 今みゆ 全一冊 讀切

高等探偵

木戸少佐
大毒藥
戀の嫉又

高等探偵 定價十八錢
郵稅四錢
著想奇矯にして筆力
勇健讀み去り讀み來
つて其快言ふべから
ず天下の奇書と言ふ
も決して自負にあら
ざるなり。

讀切として、露窓、流船、流車、馬車中の好侶伴
たらん事を期す。去れば其價は及ばむ限り最低額
とを以て讀過一番の後は途上に棄却して、些
との遺憾なからしめんとす。

- 第一集 萬文 二七六 集
- 第二集 萬文 二七六 集
- 第三集 萬文 二七六 集
- 第四集 萬文 二七六 集
- 第五集 萬文 二七六 集
- 第六集 萬文 二七六 集
- 第七集 萬文 二七六 集
- 第八集 萬文 二七六 集
- 第九集 萬文 二七六 集
- 第十集 萬文 二七六 集
- 第十一集 萬文 二七六 集
- 第十二集 萬文 二七六 集
- 第十三集 萬文 二七六 集
- 第十四集 萬文 二七六 集
- 第十五集 萬文 二七六 集

- 支那手柄はなし 全二冊
- 歴史繪はなし 全二冊
- 修身繪はなし 全二冊
- 鳥つづくし 全一冊
- 獸つづくし 全一冊



文壇學界 半紙木版摺彩色 表紙頗美本各一 冊讀切實價八錢 郵稅二錢宛

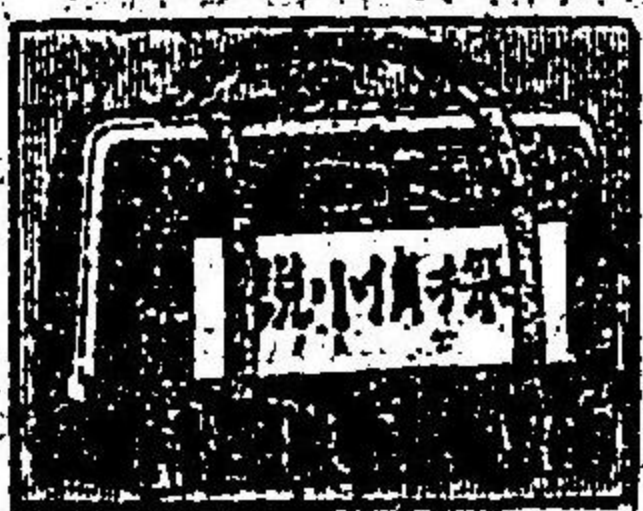
數錢の金に可借大丈夫が便々たる腹割さばいたる 奇談を始めとして、古英雄の胸腹を刺りたる猿面 冠者の快よき、かた糸辻占賣の哀れに悲しき、か くれんぼの不思議なるは正太夫が洒落の筆にな り、野試合の勇ましきは水蔭子の健筆に依つて描 かれぬ、ひつじかひは牧童の可憐なるを寫したる 松華菴の理想殆んど神に通じ、今深雪の哀れなる は雪に暮れ行く漁村の寂しきが如く、乙羽菴のあ もひり、友子の神も佛も及び柳浪子のいと見 の三編は筆力勇健にして天馬の空に騰るが如く、 又嫦娥の蒼穹に戯むるの情趣あり。

第一 紅葉作 命の安賣 全一冊 讀切 第二 山田美作 猿面冠者 全一冊 讀切 第三 妙齋作 かくし妻 全一冊 讀切

幼稚園

本編は巻を逐つて逐次發行するものにして小學兒童諸君の教師たり朋友たるべき良書なれば一枚置きに教訓色を挿入し説明は最も平易簡潔を尊び學識を修め家庭用の良書なり此幼稚園に勝るの良書あらざるべし。

幼稚園 四六版美本 實價各七錢



探偵小説全集 第一集 七冊 第二集 七冊 第三集 七冊 第四集 七冊 第五集 七冊 第六集 七冊 第七集 七冊 第八集 七冊 第九集 七冊 第十集 七冊

立案新奇にして能く人の意表に出で、讀者をして愕然、惘然、愕然、呆然、身其の境に在りて、心其の局に迷ふが如くならしむるは探偵小説に如くものなし。方今感情的小説の流行太甚だしく、事實的小説全く形を敝めてより、世間人心を活殺する底奇譚に渴すること久し。此の書は専ら遺般の需要に供せんが爲に、特に脚色の奇絶妙絶拍案三嘆に堪ふべきものを粹撰し、平易の文章を以て自在に亂麻の活劇を描き去り、毎號一卷

高等探偵

第四 巖谷作 占た糸 全一冊 讀切 第五 居直作 占た糸 全一冊 讀切 第六 正夫作 占た糸 全一冊 讀切 第七 江見作 占た糸 全一冊 讀切 第八 水蔭子作 占た糸 全一冊 讀切 第九 松華菴作 占た糸 全一冊 讀切 第十 春夢子作 占た糸 全一冊 讀切 第十一 乙羽菴作 占た糸 全一冊 讀切 第十二 廣津作 占た糸 全一冊 讀切

木戸少佐の戀の嫉妬

高等探偵 定價十八錢 郵稅四錢 若健讀み去りて筆力 勇天其快言ふべから ず決下奇書と言ふ ざるなり。

目次

- 支那手柄はなし 全一冊
歴史繪はなし 全二冊
修身繪はなし 全二冊
鳥づぶくし 全一冊
獸づぶくし 全一冊

讀切として、懸窓、漏船、漏車、馬車中の好侶、たらん事を期す。去れば其價は及ばむ限、最低額を、この遺憾なからしめんとす。 合巻 全一巻 五冊 實價各金十五錢 郵稅各四錢

一十三内之目書行發堂陽春京東

一三内之目書行發堂陽春京東

新將に滑ならんとて、南枝先づ齋らす春信の... 花の嬌は短命の如く、或は夏の酒落るが如く、...

- 第五號 勸善懲惡孝子譽 五幕 全一册
第六號 新屋舖月雨暈 三幕 全一册
第七號 巖石碎瀑布勢力 三幕 全一册
第八號 水天宮利生深川 二幕 全一册

次目部全選家百說小

Table with 15 columns and 2 rows listing book titles and authors. Columns include book titles like '手女', '女心', '此心', etc., and authors like '手女', '女心', '此心', etc.

- 第一部 玉簫 窓の月 下宿屋 走馬燈 福へ所 他山
第二部 水の流れ 義理の橋 願小説目録 願落の願
第三部 遠く 大阪の夜 時々の用 景分道 人の行末 文の間
第四部 願の月 願の子 大石真虎の傳 當世寫眞鏡
第五部 願の鳥 縁の糸 めかし損 當世寫眞鏡 孝女

全 部 目 録
玉簫 窓の月 下宿屋 走馬燈 福へ所 他山
水の流れ 義理の橋 願小説目録 願落の願

- 第一號 村井長庵巧破傘 八幕 全一册
第二號 怪談江戶小腕達引 三幕 全一册
第三號 淨島衛月白笠森 五幕 全一册
第四號 淨木間星箱根鹿笛 四幕 全一册

狂言百種
故河竹默阿彌作
各售價二十錢
郵税六錢

領名譽實錄

全十卷

實價十五錢 郵稅四錢宛
全部十册金一圓二十錢

神史俗傳は嘘で堅め芝居講釋はそら事多し世人既に今日正史なく實傳なきを憾む弊堂此度嚴秘の古寫本數十卷を得たれば是等を根據として豪雄偉傑の眞傳を編し其文體は通俗平易にして傍訓を施し今や其既成の稿本十卷に滿てり因て是を刊行して大方に頒つ諸君希くは愛覽を賜へ。

第一卷目次

大川右衛門(御朱印箱の實錄) 法華 丈助(遊華往生の實錄)
前田 清國(加賀殿助の實錄) 岡村 十兵衛(土佐村吏の實錄)
奥平 源八(市谷復讐の實錄) 高田屋喜兵衛(遠航商人の實錄)
根岸 鐵衛(刺繍奉行の實錄) 大石 貞虎(有職繪師の實錄)
後藤 又兵衛(黒田家臣の實錄) 袈裟 御前(盛衰難産の實錄)
矢部 定謙(市尹駿州の實錄) 上總 市兵衛(下僕忠義の實錄)
杉田 登岐(越前家老の實錄) 法 界 坊(勸化名僧の實錄)

第三卷目次

小野川三郎(有馬力士の實錄) 源慶 正常(片腕刀工の實錄)
脇坂 七兵衛(前田家臣の實錄) 左 甚五郎(彫刻名匠の實錄)
定四 法師(備前入道の實錄) 松田 甚三郎(山田守の實錄)
北條 泰時(鎌倉執權の實錄) 橋田院長兵衛(江戸侍客の實錄)
山田 盛源(馬術達人の實錄) 山城屋 和助(明治商の實錄)
戸谷新右衛門(紀州義民の實錄) 萩田 主馬(高田殿助の實錄)
支倉 常長(羅馬遣使の實錄) 馬場三郎兵衛(大飲酒家の實錄)

第二卷目次

山田 長政(暹羅傳説の實錄) 中山 愛親(殿中間答の實錄)
松本莊右衛門(民権鼓吹の實錄) 佐々木 果(女流人の實錄)
神谷 鶴(仙石殿助の實錄) 荒木又右衛門(上野殿助の實錄)
波邊 數馬(上野殿助の實錄) 近藤 虎徹(刀工出身の實錄)
松前五郎兵衛(俠客危難の實錄) 三宅 康盛(龜山領主の實錄)
石河 政方(奉行名断の實錄) 大田 千江(胡妓喜遊の實錄)
濱田 彌兵衛(關入降服の實錄) 藤田 勲(鎗持忠義の實錄)

第四卷目次

宮本 武蔵(大劍術家の實錄) 金 忠 輔(外征傳人の實錄)
阿 法印(市村屋主の實錄) 清水 新次郎(橋本傳人の實錄)
平賀 源内(風來山人の實錄) 深井 志道軒(註釋師の實錄)
徳川 吉宗(八代將軍の實錄) 伊勢屋 芳之助(女流の實錄)
文珠 九助(伏見俠客の實錄) 本間 孫四郎(弓馬達人の實錄)
山中 鹿之助(尼子家臣の實錄) 高橋 左衛門(書物奉行の實錄)
伊達 宗重(仙臺殿助の實錄) 細川 榮代(奉公入道の實錄)

第五卷目次

浦井 英敏(新潟殿助の實錄) 増田 甲斐(露國外官の實錄)
小林 平八郎(吉良家老の實錄) 日蓮 上人(法華祖師の實錄)
阿蘇 頼朝(肥後力士の實錄) 山本 勲助(武田家臣の實錄)
吉村 れつ(武蔵女子の實錄) 河 太 郎(奇行豪商の實錄)
水部 殿助(大阪復讐の實錄) 崎津 久光(明治功臣の實錄)
高倉長右衛門(會津浪人の實錄) 伊能 忠敬(測量名家の實錄)
鈴鹿 萬吉(野人奉行の實錄) 古河 默阿彌(演劇作者の實錄)

第八卷目次

車 善七(乞食頭取の實錄) 荒瀬 右衛門(大阪力士の實錄)
柳生 宗炬(兵法達人の實錄) 金巻 甚九郎(江戸俠客の實錄)
大高 源三郎(浪士復讐の實錄) 板倉 重宗(所司代官の實錄)
稲 源 空(圓光大師の實錄) 多田 千次郎(時人行竹の實錄)
徳川 光國(水戸黄門の實錄) 高栗 利右衛門(羽州義民の實錄)
二宮 尊徳(殖産大家の實錄) 島井 宗室(博多豪商の實錄)
春名 修理(播磨勇士の實錄) 松葉屋 瀬川(吉原復讐の實錄)

第六卷目次

英 一 蝶(文人畫伯の實錄) 熊澤 了介(青山先生の實錄)
後田 孫兵衛(武士烈婦の實錄) 式亭 三馬(戯作大家の實錄)
林 子 平(愛國傑士の實錄) 石井 了子(少女復讐の實錄)
大鹽 後繁(天満殿助の實錄) 扇屋 盛河(妓樓仁主の實錄)
杉田 玄伯(洋館開祖の實錄) 河村 瑞賢(即智傳人の實錄)
徳川 齊昭(水戸烈公の實錄) 三笑亭 可樂(落語中興の實錄)
櫻 沖(博學名僧の實錄) 武田 耕雲(草摺志士の實錄)

第九卷目次

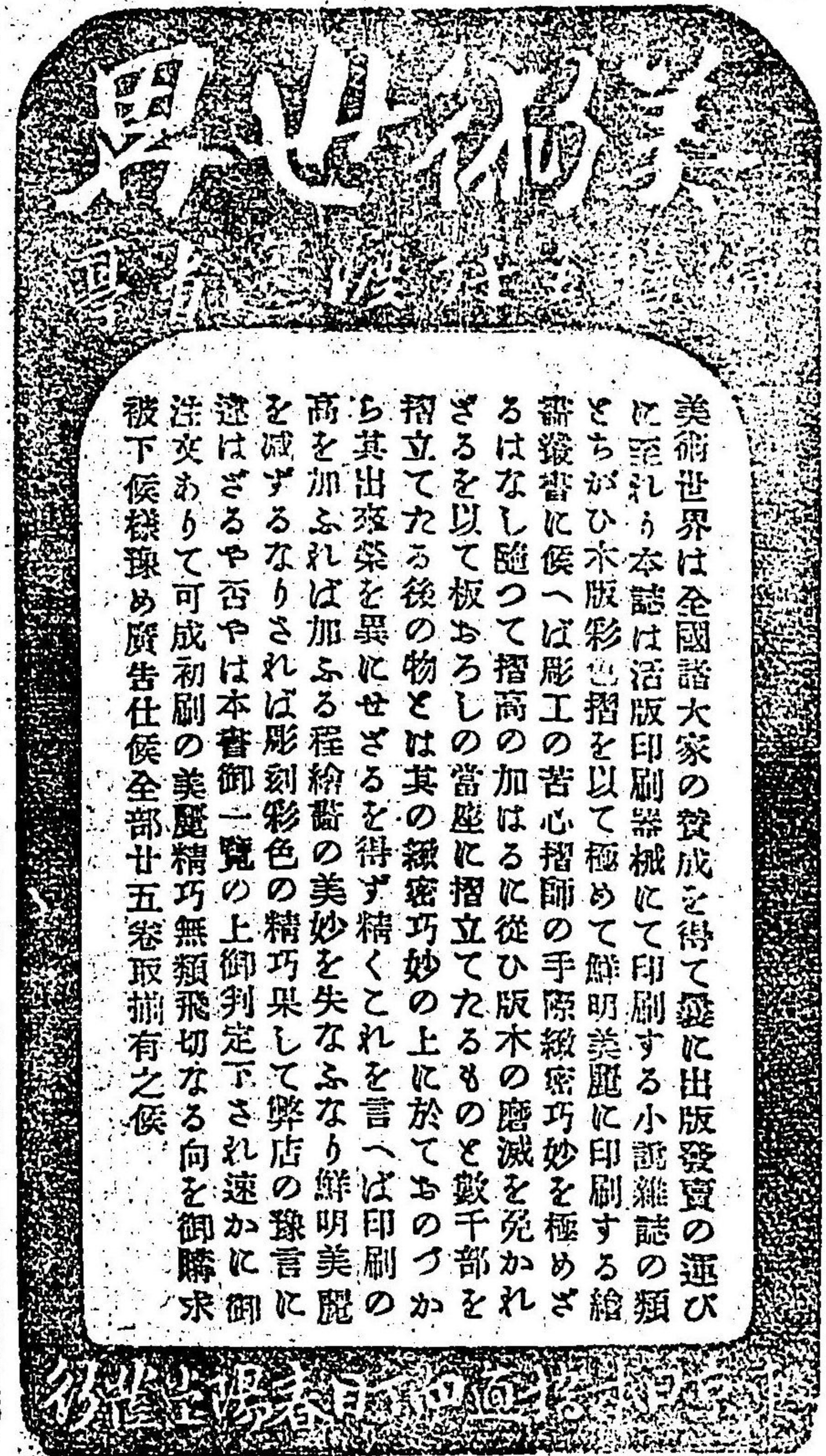
伊藤 仁齋(古學鴻儒の實錄) 阿部 忠秋(澤川騎渡の實錄)
久米 幸太郎(復讐英談の實錄) 村上 佛山(慷慨詩家の實錄)
千葉三郎兵衛(浪士復讐の實錄) 本間 忠勝(精進切槍の實錄)
黒澤 登喜子(烈女艱苦の實錄) 本居 宣長(國學開祖の實錄)
坂 保己(醫術學者の實錄) 夢 一 郎兵衛(有名俠男の實錄)
赤目 新兵衛(乞食立身の實錄) 翠 香 院(貞俠秘妓の實錄)
市川 海老蔵(俳優巨擘の實錄) 村上 文内(新撰神道の實錄)
附五代目團十郎及七代目團十郎 松下 助三郎(芥川殿助の實錄)

第七卷目次

本多 重次(鬼さく左の實錄) 後藤 才次郎(陶器名工の實錄)
木内 宗吾(佐倉殿助の實錄) 池野 大雅(文人畫伯の實錄)
市川 團十郎(元祖名優の實錄) 本間 小熊(神道刺客の實錄)
源 信(悪心僧都の實錄) 和佐 大八郎(弓術達人の實錄)
乙骨 時軒(江戸儒者の實錄) 浮田 民十郎(福井殿助の實錄)
佐野 鹿十郎(福井殿助の實錄) 越後 傳吉(孝子疑獄の實錄)
徳屋 五兵衛(貿易商人の實錄) 近松門左衛門(戯曲作者の實錄)

第十卷目次

平 將 門(天慶擾亂の實錄) 松平 左兵衛(吉井信俊の實錄)
宇津木 靖道(天満殿助の實錄) 岡 性 齋(明初忠臣の實錄)
僧 桃 水(神味三昧の實錄) 國定 忠次(上毛傳徒の實錄)
孝子 萬吉(山間陽光の實錄) 八代目成田屋(編綴俗話の實錄)
波邊 山(慷慨畫伯の實錄) 山内 一 豊室(戰國烈婦の實錄)
谷村 計介(軍人忠義の實錄) 直助 播兵衛(不忠賊子の實錄)
猪野 年太(頼政射鶴の實錄) 金 忠 輔(北海傳夫の實錄)
豊田 天功(水戸修史の實錄) 貞女 一 野(貞操美談の實錄)



美術世界は全國諸大家の賛成を得て露に出版發賣の運びに至れり本誌は活版印刷器械にて印刷する小説雜誌の類とちがひ木版彩色摺を以て極めて鮮明美麗に印刷する繪畫書籍に候へば彫工の苦心摺師の手際緻密巧妙を極めざるはなし隨つて摺高の加はるに從ひ版木の磨滅を免かれざるを以て板おろしの當座に摺立てたるものと數千部を摺立てたる後の物とは其の緻密巧妙の上にて於ておのづから其出稼を異にせざるを得ず精くこれを言へば印刷の高を加ふれば加ふる程繪畫の美妙を失なふなり鮮明美麗を減するなりされば彫刻彩色の精巧果して弊店の豫言に違はざるや否やは本書御一覽の上御判定下され速かに御注文ありて可成印刷の美麗精巧無類飛切なる向を御購求被下候様豫め廣告仕候全部廿五卷取揃有之候

美術世界は廿五卷にて完結各一冊實價三十錢十冊二圓八十錢郵税一冊に付四錢郵券代用は壹割増二錢切手に限る●全部廿五卷御注文は金七圓郵税八拾錢

Table of contents for 'Art World' series, listing volumes 1 through 7 with author names and titles. Includes sections like '美術世界第一卷目次', '美術世界第二卷目次', etc.

一十四内之目書行發堂陽春京東

美術書

●美術世界第廿五卷

花鳥集 十二圖

●美術世界第二十卷目次

久保田米 川崎千虎 三島千虎 幸野正年 久保田米 川崎千虎 三島千虎 幸野正年

●美術世界第廿二卷目次

久保田米 川崎千虎 三島千虎 幸野正年 久保田米 川崎千虎 三島千虎 幸野正年

●美術世界第廿三卷目次

久保田米 川崎千虎 三島千虎 幸野正年 久保田米 川崎千虎 三島千虎 幸野正年

尾形流印譜

尾形流百圖

美術名印部類

國風畫の部

成歡敵壘陷落の圖

額面形幅二尺三寸縦一尺五寸

甲斐榮一郎氏畫

定價金八錢五厘

郵税貳貳錢

十四内之目書行發堂陽春京東

美術書

●美術世界第十九卷目次

久保田米 川崎千虎 三島千虎 幸野正年 久保田米 川崎千虎 三島千虎 幸野正年

●美術世界第廿一卷目次

久保田米 川崎千虎 三島千虎 幸野正年 久保田米 川崎千虎 三島千虎 幸野正年

●美術世界第廿二卷目次

久保田米 川崎千虎 三島千虎 幸野正年 久保田米 川崎千虎 三島千虎 幸野正年

●美術世界第廿三卷目次

久保田米 川崎千虎 三島千虎 幸野正年 久保田米 川崎千虎 三島千虎 幸野正年

從征畫稿

此卷ハ... 戰地實地... 大判六枚... 郵實四錢

第壹卷

花田口上陸ノ圖... 家屯ニ於テ...

第貳卷

總子高第... 軍司令部ノ圖...

第三卷

金州城南門外ノ圖... 砲臺ノ圖...

第四卷

土城子南方ノ山... 師營南方ノ高地...

一冊十 一錢

寫真畫報

初め戰國寫真畫報と題し第一卷は明... 小川一眞氏及堀健吉氏の寫真彫刻版...

郵稅一 錢五厘

全廿冊號外一冊實價貳圓五十錢... 全部映入上下二帙特別減價...

史傳、詩歌、字典及雜書

征清忠魂帖

血と涙とは... 征清軍の成果今日の如きも...

勇將猛卒の血... 國民の涙を以て得たるものなり...

將校肖像... 小川一眞氏の美術寫眞版...

久保田米僊君畫

朝鮮時事

朝鮮國王、大院君、袁世凱等の肖像挿入... 朝鮮の現狀は敢て詳述するの要なし...

幸ひにして著者は再び朝鮮に航して朝鮮の事情に... 久保田米僊君の「實寫畫三十餘箇」を以てす...

北支那雜記

北京城廓、萬里長城、支那貴婦人風俗及服裝、支那内地演戲場及俳優...

口畫

今や我第一軍連戦連勝の勢に乗じて清國の地に... 沙黃漢進軍の難關し少からず著者吳卿居士支那内地を周遊するも...

從征畫稿

戰地實地 大判六枚一冊 生寫郵稅四錢

此卷ハ前伯飛非氏が戦地ノ光景ヲ實寫セルモノヨリ 拔萃セル物ニテ氏ハ昨年朝鮮平壤ノ役ニ第一軍ニ從軍シ其後續シテ第二軍ニ從ヒ花園口上陸以來旅順ニ至ル迄 數月作圖ノ原料ニ充シタメ日々日撃セル實況ヲ寫シシテ數百枚ニ上レリ 信陽堂岡村氏春陽堂主人ト之ヲ計リ高氏ニ乞ヒテ出版セント思ヒ立タカクハ實ニ本年一月ノ初メナリ然レニ 厄運ハ來テ戰地倉卒ノ際筆ヲ走ラシメ本ノ之ヲ修飾スルハ却テ其趣致ヲ減却スルノ恐レアリトテ一モ改竄スル所ナク此項花園口ヨリ旅順迄ノ實況數十枚ヲ印刷セリ因テ集ニ四卷トナシ庶ク世ノ愛國ノ志ヲ發シテ 獨平製ノ巻及ヒ其他ハ逐次刊行以テ江湖ノ望ニ協ヘン

第壹卷

花園口上陸ノ圖(貳枚綴き)(未成) ●花園口貨物揚陸ノ圖 ●國家屯ニ於テ第貳軍司令官及將校一同天長節宴會ノ圖 ●人民王師ヲ迎フルノ圖 ●軍隊ノ通過ヲ見テ涕道ノ人民遊逸スルノ圖

第貳卷

錦子高第貳軍司令部ノ圖 ●錦子高兵士會營ノ圖 ●從軍新聞記者會營ノ圖 ●石門子戰後ノ圖(未成) ●金州城壁上下ノ圖 ●金州城第二軍司令部ノ圖

第三卷

金州城南門外ノ圖 ●全市街ノ圖 ●全旅所ノ圖 ●大連灣和尙島中砲臺ノ圖 ●全砲臺遠望ノ圖 ●双葉驛附近行軍ノ圖

第四卷

土城子南方ノ山麓ニ露營ノ圖 ●旅順總攻擊ノ圖(貳枚綴き) ●水師營南方ノ高地ヨリ旅順ヲ望ムノ圖 ●旅順市街ノ圖 ●旅順ノ敗兵金州灣ニ凍死ノ圖

寫眞畫報

一冊十 二錢

初め戰國寫眞畫報と題し第一卷は明治廿七年十月より發行せる者にして小川一良氏及堀健吉氏の寫眞彫刻版を用ひ日清韓の人物景色風俗戰爭等の圖畫を掲げ之に説明を加へたる者にして寫眞彫刻版(Holo-Engraving)の挿圖ある雜誌の嚆矢なり特に其第五號には東京上野に於て行ひたる第一回祝捷會の寫眞のみを掲げ第十一號には京都の名勝古跡及神社佛閣等を輯め第十二號は同地近傍近江大坂神戸播磨等の名所を輯め第十三號は大和奈良の名所を掲ぐ而して第十四號以下は範圍を擴張し世界の森羅万象何れとなく掲ぐる事となし政治家軍人豪商紳士美女藝人より萬國の地理風俗等を網羅す挿畫の精美に説明の詳悉を併せ見れば諸を掌に指すが如し。

郵稅一 錢五厘

全廿冊號外一冊實價貳圓五十錢 全部映入上下二帙特別減價 金貳圓 遞送料四十錢

史傳、詩歌、字典及雜書

征清忠魂帖

忠魂 寫眞版背像入 菊版美本 定價金卅八錢 特別割引卅錢 郵稅六錢

血と涙とは誠なり、誠なき所、征清軍の成果今日の如きもに血と涙とはあらず、君よ、征清軍のあるを實に之れ我

勇將猛卒の血國民の涙を以て得たるものならしむるに本書の題に主眼なる事、嗚呼血と涙とは如何にして又全篇の主意なる事を為さんとす

收むる處の記事は百廿有餘皆血と涙を以て得たるものならしむるに本書の題に主眼なる事、嗚呼血と涙とは如何にして又全篇の主意なる事を為さんとす

記さ其他戰地逸聞佳話軍士家族の美事は別に逸戰死將校肖像に至っては小川一良氏の美術寫眞版を以て印刷したれば其美無比

久保田米僊君畫 柵瀨軍之佐君著

朝鮮時事

朝鮮時事 全一冊 實價廿五錢 郵稅六錢

朝鮮國王、大院君、義世凱等の肖像挿入 朝鮮の現狀は敢て詳述するの要なし、而して此の現狀を知り、此の現狀の及ぶ可き處を知り、及び朝鮮の政治、法律、社會、風俗、慣例等を知らん、欲する人は須らく本書を一讀するの必要ある可し、

北支那雜記

支那實價金十五錢 郵稅四錢

幸ひにして著者は再び朝鮮に航して朝鮮の事情に精通す、其の腕麗の筆、微細の察、添ゆるに詩伯久保田米僊君の「實寫畫三十餘箇」を以てす、若夫れ今日の際を細かば、身は恰も朝鮮に入るの想ある可し。

吳卿居士譯官頼三譯著

今や我第一軍連戰連勝の勢に乗じて清國の地に落む一舉風城を拔き再舉天府を屠り第二軍は旅順口を封鎖し北京を圍るは儘々踏を掌に指す、如し然れども北清の地たる遼東漢口威海衛を嚙み白沙黃河進軍の難路し少からず若者吳卿居士支那内地を周遊するも十年餘に北清の事情に精し今日此亦あるに際し此書を著す稿中ならす從軍の命を擧る故に此書素より完璧を以て許すべからず然れども北清の軍備、地理、制度、風俗、人情に就きその一斑を知るに餘あるや明かなり、附するに海防の概況を以てす今日の時勢亦大に國民の覺悟として之を見る事緊要なるべし。

口畫寫眞 支那貴婦人風俗及服裝 支那内地演戲場及俳優

新三國誌

新三國誌 實版美裝 郵稅四錢

朝鮮支那諸名士詳傳並肖像挿入

我日本帝國は朝鮮の獨立を扶植し大に... 支那彼何物ぞ 敢て隊...

檀本海軍中將序

清佛海戰日記

清佛海戰日記 定價二十錢

口書

福州城廓 全部寫真石版

本書は多年支那各地に官遊したる有名なる北清見聞録の著者仁禮...

古今史譚

古今史譚 全五冊紙數每冊二百頁以上全部一千...

近來の史家中名聲著たる樂真子後洞生... 樂真子後洞生合著

第一卷目録 信玄謙信の有變 信玄謙信川中島格闘の説...

第二卷目録 東照公病中の御手療治 高松城將清水長左衛門...

第三卷目録

山本勘介は山縣氏の一部卒に過ぎず... 加藤明成對土返納一件...

勅諭修身書

全四冊和綴半紙版中書數十個挿入製本優雅... 勅諭修身書

衣服裁縫獨案内

工夫簡便 裁縫獨案内 實價廿五錢

民約論覆義

日清文明論

支那軍歌全集

新詩學必携

明治和歌教草

唐詩選

幼學便覽

法主原田階譯 郵實稅六十五錢

松島剛舟序 郵合卷實價五十錢

軍島居忱撰 集全歌鳥居忱撰 郵實稅八錢

合卷一 郵實稅七錢

明治和歌教草 郵實稅二十五錢

唐詩選 郵實稅四十二錢

幼學便覽 錢全作幼選 郵實稅四十二錢

東京活字字典



東京活字字典 郵二東京活字字典 稅十一錢

眞州千字文

明算法新書

眞州千字文 郵實稅四十四錢

明算法新書 郵實稅四十四錢

世體明辨

活用文證大全

後藤五經

四書集註

全岡 郵實稅四十四錢

伊藤半紙全一 郵實稅二十五錢

片假名付全六 郵實稅八錢

中紙和製印刷 郵實稅七錢

丁實紙數七十五 郵實稅六錢

全實紙數七十五 郵實稅六錢

天下稀有之一大珍書

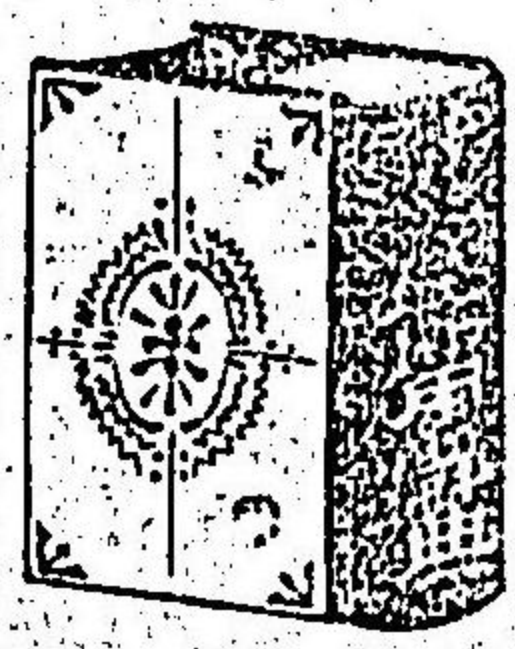
色情狂編 全一冊

男の男を戀ひ、女の女

色情界の事

如何人雖も之を容れず

色情界の事 郵實稅六錢



新式節用辭典

附錄 無限七曜表 漢字假名遣 雜字地名 雜字地名 雜字地名 雜字地名

評會學醫法京東本日

若日清交戰軍用地圖

我征清軍の進みたる處、攻取を加へたる處、占領したる處を知らんと欲せば日清交戰軍用地圖を見よ、本圖は尤も見易く且地球に害を及さざる事に注意し着色彩粉を施して印刷を美麗鮮明にと勉められたる進物などには最も適切なるべきものなり。

實價 九錢
郵税 貳錢

諸大家 傑作 **小説花籠**

實價 八錢
郵税 四錢

大日本臺灣澎湖全圖
清國奉天省日本占領地全圖

朝鮮全圖

北支那全圖

折一各
定價廿五錢
尺五寸横壹尺
貳寸舶來改尺
摸造紙製本美
色刷面及日細
製全圖及び日
亞全圖及日細
清韓三國連絡
地圖を印刷す

征清軍一たび起りて我が軍進戰連捷の結果臺灣全島及び澎湖列島皆帝國の新版圖に歸す

して平和茲に克復す、吾人生れて大帝國の臣民たる者誰か其地形風土を知悉せずして可ならんや、又遼東半島は我れの彼れに遼附すべきの地たるも是れ我が軍が百戰千鬪血を流し骨を暴らして占領したるもの亦之を忘るべからず、本圖は實地百萬分一圖にして極めて精確なる材料に據て之を編纂し特に臺灣圖は物産々地の如き一々之を示し、又遼東半島日清交戰地は悉く一種の記號を以て之を標示し且一目瞭然覽者をして些の遺憾なからしむるを期せり、若し夫れ朝鮮全圖及び北支那全圖も亦均しく精確詳密固より臺灣圖と其撰を同ふす且三國共に裏面には亞細亞全洲圖及び日清韓三國連絡地圖を印刷して以て容易に彼是の關係を明知するの便を計れり故に此の三圖は編纂實に精確にして印刷鮮明紙質善良、寔に忠誠勇武なる帝國々民に向て其要望を充たすの點に於て優に世上幾多の地圖中嶄然一頭角を顯はせると信じて疑はざるなり。

石黒忠憲先生評序 谷口神太郎君纂譯

通俗病理問答 第一編

內科の部 實價十八錢 郵税四錢

第一章 人體構造の概略 第一節 骨格 第二節 肉 第三節 皮膚 第四節 呼吸器の構造 第五節 消化器の構造 第六節 排泄器の構造 第七節 生殖器の構造 第八節 循環器の構造 第九節 泌尿器の構造 第十節 内分泌腺の構造 第十一節 感覚器の構造 第十二節 運動器の構造 第十三節 皮膚病 第十四節 呼吸器病 第十五節 消化器病 第十六節 泌尿器病 第十七節 生殖器病 第十八節 循環器病 第十九節 内分泌腺病 第二十節 感覚器病 第二十一節 運動器病 第二十二節 皮膚病 第二十三節 呼吸器病 第二十四節 消化器病 第二十五節 泌尿器病 第二十六節 生殖器病 第二十七節 循環器病 第二十八節 内分泌腺病 第二十九節 感覚器病 第三十節 運動器病

通俗病理問答 第二編

外科の部 實價十八錢 郵税四錢

第一章 總論 第二章 創傷 第三章 出血 第四章 瘡癤 第五章 腫瘍 第六章 皮膚病 第七章 瘰癧 第八章 梅毒 第九章 淋病 第十章 結核 第十一章 肺病 第十二章 腸胃病 第十三章 肝膽病 第十四章 腎臟病 第十五章 泌尿器病 第十六章 生殖器病 第十七章 循環器病 第十八章 内分泌腺病 第十九章 感覚器病 第二十章 運動器病 第二十一章 瘰癧 第二十二章 梅毒 第二十三章 淋病 第二十四章 結核 第二十五章 肺病 第二十六章 腸胃病 第二十七章 肝膽病 第二十八章 腎臟病 第二十九章 泌尿器病 第三十章 生殖器病 第三十一章 循環器病 第三十二章 内分泌腺病 第三十三章 感覚器病 第三十四章 運動器病

間福利〇階級の資質の區別 〇發力の強弱 此書は人體解剖の細圖を付し各自治療の出來得る 様樂名調合法及養生法等詳細に記載あり

橋爪 貫一 男女交合新論

全六十回 郵税四錢

本書は東京淺草橋爪佐吉なる者所著なる類例板出版致し 直に差止候へ共地方實地へ直段の安き爲め仰り居り候哉も難 計候間著者及出版所御味の上御買問 遂なき様御注意願上候

通俗男女自衛論

合卷 實價十八錢 郵税四錢

- 卷之一 房事の事
卷之二 手淫及多淫の害
卷之三 遺精生殖無功并に生殖不能の論
卷之四 淋病、消渴、尿道狹窄、膀胱瘵、腎、
卷之五 婦人手淫の害

生子の耽 〇第廿六日生に可なる日時を論す 〇第廿七交婚に付ての 注意 〇第廿八交婚は全身の作用を促動す 〇第廿九精神の喚激を避 助は假生に害あり 〇第卅精神を節制するは害あらざる説 〇第卅 一亂雜の交婚は爲すべからず 〇第卅二交を留るを論す 〇第卅三 避孕は天理に背く事 〇第卅四至極な苦を論す 〇第卅五精 神の愛は避孕の真法なる事 〇第卅六子宮の原因及び其治法を論す 〇第卅七陰部解剖の學を世に普及する事の必要なる説 〇第卅八精 蟲の脱 〇第卅九卵丸の構造及び其効用 〇第四十陰莖の構造及び其 効用 〇第四十一尿道を保護するの構造及び其効用 〇第四十二龜頭 と包皮との構造及び其効用 〇第四十三子宮の構造及び其効用 〇第 四十四陰道の構造及び其効用 〇第四十五卵巣卵珠嚢及び其効用 〇 第四十六男女の陰具は互に能く適合す 〇第四十七陰具の摩 擦は全身の作用を起す 〇第四十八壓力は交婚に必要なり 〇第四十 九孕胎の説

故三條實美公題辭

全部四十卷洋紙刷和裝大形本紙數一千三百八 十頁映入合本四冊實價一圓八十錢遞送費廿錢

名將言行錄

田口文之序并評 安井衡古賀煒評

我邦古來史籍に乏しからずと雖も概ね本紀又は傳記の體 裁にたりて名賢の言行を省略するもの多し偶徳川時代 著者國谷氏實に十五六年の長日月を費やして北條時 曲のもの多し國史編纂の材料殆んど尋ねべからざる 今日 讀者國谷氏に至るまで百七十八名士の言行を詳叙するもの あり徳川氏に於ては百七十八名士の言行を詳叙するもの あり徳川氏に於ては百七十八名士の言行を詳叙するもの あり 史研究の材料として之に優るの大寶典はなからん 著者國 谷氏の編纂に此書を企てたるは實に安政甲寅の歲にして爾來家藏の秘書は固より諸家の書庫に就て 涉獵する事殆ど一千二百五十一部の多きに達し漸く明治己巳の年迄至りりしめて脱稿するを得尙再三 刪校訂したる其間の辛苦實に言ふべからざる然して編纂の躰裁は略時代を逐ひて一人毎に其所叙任封祿 逝去年月等を叙し更に年代實歴を擧げて言行を項叙したり卷中掲ぐる所は元々長慶龍造寺隆信荒木村 全氏規全綱成(二)太田資長全資正長野業正(三)尼子經久山中幸盛今川義元三好長慶龍造寺隆信荒木村 重(四)毛利元就全秀元(五)吉川元春全元長全廣家(六)小早川隆景(七)武田晴信(八)武田勝頼全信幸 原虎胤山本陣行甘利晴吉(九)馬場信房山縣昌景(十)高坂昌信内藤昌豊(十一)真田幸隆全昌幸全信幸 (十二)上杉輝虎(十三)上杉景勝(十四)宇佐美貞行本莊繁長甘糟景持全清長(十五)直江兼續藤田信吉 (十六)織田信長(十七)柴田勝家佐々成政澁川一益丹羽長秀全長重佐久間信盛全盛政(十八)明智光秀全 光春(十九)細川藤孝全忠興(二十)前田利家(廿一)田利長全常彌全直政(廿二)親全盛親宇喜田 中川清秀前田玄以森長康山内一豊池田輝政(廿三)蒲生氏利全常隆全直政(廿四)長曾我部元親全盛親宇喜田 秀家全直家(廿五)島津義久全義弘全家久伊達政宗(廿六)戸次鑑連高橋鎮種(廿七)立花宗茂(廿八)藤堂高 秀吉(廿九)黒田孝高(三十)黒田長政蜂須賀家政富田知信野了伯(卅一)鍋島直茂加藤嘉明中村一氏田 中吉政(卅二)加藤光泰淺野長政全幸長堀尾吉晴(卅三)増田長盛渡邊了大谷吉隆長東正家(卅四)福島正 則可兒吉長福島治重大崎長行吉村宣充(卅五)加藤清正(卅六)石田三成島友之小西行長(卅七)藤堂高 全幸昌(卅八)京極高次寺澤廣高松倉重政仙石秀久脇坂安治(卅九)片桐貞盛木村重成後藤基次(四十)眞田幸村 大賣捌所 東京市日本橋區通四丁目 春陽堂

日本未來 蘇海松著 全二册 郵價二十五錢

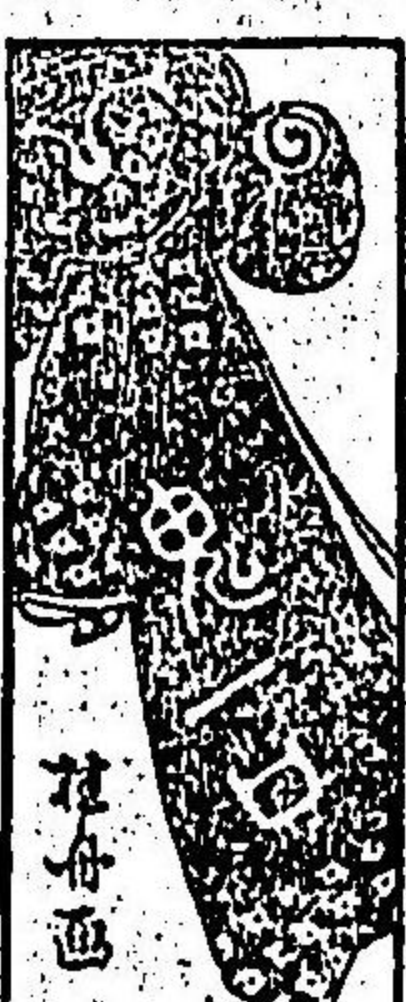
春之夕暮 末松青萍合作 小楠公 郵價四十五錢

好色二人息子 川尻寶琴著 郵價四十五錢

燒火 巖谷健山人著 郵價三十錢



由來洛陽の地山... 郵價六錢



宮崎三味作 實價廿五錢 郵稅四錢

俠女ありと... 泰平樂を吐けども、彼必らずしも涙なきにあらず、小園の可憐なる兵介の血氣なる、俠女を其間に點綴して妙絶なる所を知らず、一徹なる老婆が御所の奥に血涙を呑むに至つては、千斛の涙爲に悉きんとす。



櫻痴居士作 實價六錢 郵稅六錢

本書は櫻痴居士が得意の院本なり、豊島練馬兩家



加藤平著 實價三十錢 郵稅六錢

明未傑士あり、忠節獨り凛烈、孤松寒風に秀で梅花苦節を守る朱成功、父は唐土母は日本、和藤内の紅流に、梨園社會の花と呼ばるゝ、此偉男子が一世の實話、院本に綴りし好冊子、挿畫は稻野年恒子が丹青に成りて、艶美島洋海波着きの邊、偉男兒楯上に凭りて睥睨すれば、四百餘州眼底に横はる、快絶始んど究まるの所、運筆愈々圓妙。



宮崎三味著 實價三十錢 郵稅六錢

見交す袖も比翼塚、後の浮名に残りたる、目黒の里の糸の井の一人娘の威光にて、此處の婿金と成りし大盛が、終には金の威光にて、如何に金佛木佛に思はれて、思ふ御人は世捨人の、如何に金佛木佛に思はる身じやとて、さりとては、如何に金佛木佛に思はる石碑は丸に井桁の、哀れ悲しき涙の泉、空しく残るに傳ふ白玉は、露か涙か夫かあはれぬか。

の確執によつて或は細雨の非々となり或は秋風の蕭殺となり更に轉じて鶴姫狂亂の場となりては、蛟蝶花に戯れ月前嫦娥の舞ふかと怪しむる、挿畫は筒井年峰子の丹青になりて、艶麗優美一見魂飛び魄消せん、文と畫と双々兩々、實に近代の好著述なり。



筒井年峰作 實價六錢 郵稅六錢

讀賣新聞なるものあり、大いに力を文學にいたす、往年賞を懸けて傑作をつのる、本書は實に其賞中にありて鏘々金石の聲を發するもの、智恩院の宮が幕府の專制を憤慨して、決然細衣の袂を拂ふて立ち、仆幕の謀をめぐらしたりと雖も、災不測の裡に起り、空しく恨みを呑み玉ふいたはしき、天下何人か同情を表さる者やあらん。

藤澤 櫻松 著
日本未來
 二全 郵實 價二十五錢

未松青萍 合作
小楠公
 三和 郵實 價四十五錢

川尻寶岑 著
好色二人息子
 三三 郵實 價四十五錢

後 村 上 浪 六
 月 日 三 の
 郵 實 價 四 十 錢

燒 巖 谷 澁 山 人 著
火渡邊省亭書
 郵 實 價 六 十 錢

由來洛陽の地山...
 郵 實 價 六 十 錢



宮崎 三味 作
 武内 桂 舟 作
 郵 實 價 四 十 錢

俠女ありと... 殺生關白を掌中に弄して、
 並居る將武者を眼下に照し、怒らば獅子をもう
 たんずる秀次の前に、兵介といふ美少年に戯れて
 恬然省みず、男を女の手遊になして、逢ふ人毎に
 泰平樂を吐けども、彼必らずしも涙なきにあらず、
 小團の可憐なる兵介の血氣なる、俠女を其間に點
 綴して妙絶する所を知らず、一徹なる老婆が御所
 の奥に血涙を呑むに至つては、千斛の涙爲に悉き
 んどす。



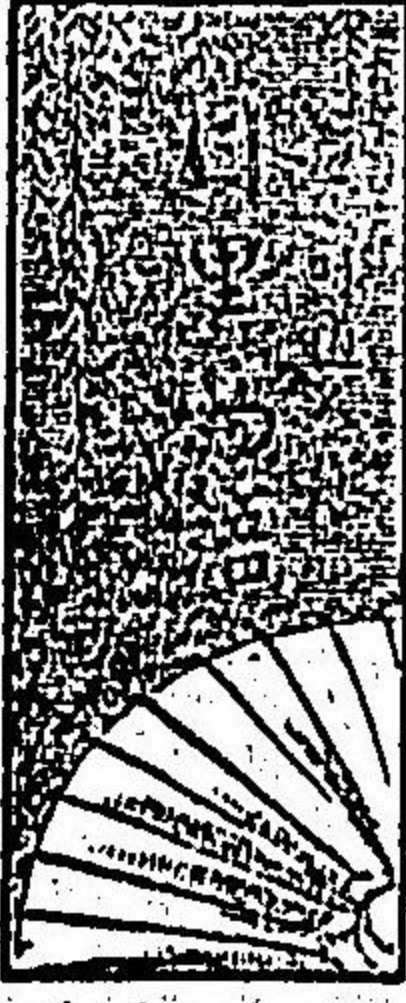
櫻痴 居士 作
 筒井 年 峰 作
 郵 實 價 六 十 錢

本書は櫻痴居士が得意の院本なり、豊島綱馬兩家



加藤 平野 著
加藤平野
 神 實 價 三十錢

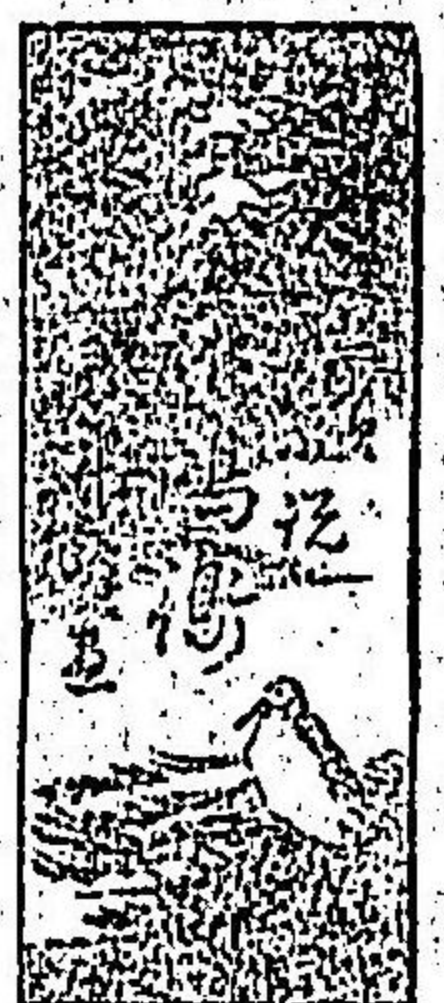
明未傑士あり、忠節獨り凛烈、孤松寒風に秀で梅
 花苦節を守る朱成功、父は唐土母は日本、和藤内
 の紅流に、梨園社會の花と呼ばる、此偉男子が
 一世の實話を、院本に綴りし好冊子、挿畫は宿野
 平恒子が丹青に成りて、麗美島洋海波蒼きの邊、
 偉男兒橋上に凭りて睥睨すれば、四百餘州眼底に
 横はる、快絶始んど究まるの所、運筆愈々圓妙。



宮崎 三味 著
黒目
 渡邊 省亭 作
 郵 實 價 三十錢

見交す袖も此... 後の浮名に残りたる、目黒の
 里の糸の非の一人娘の威光にて、此處の爛金と成
 り大盡が、終には金の威光にて、此處の爛金と成
 り濟せど、濟まぬは世捨人、如何に金佛木佛に思
 はれて、思ふ御人は世捨人、如何に金佛木佛に思
 ふる身じやとて、さりとてはつれなき、思
 ひは凝りて氣は狂ふ、哀れ悲しき涙の泉、空しく
 残る石碑は丸に井桁の傍を慕ふて鳴くか時鳥、青
 葉に傳ふ白玉は、露か涙か夫かあらぬか。

の確執によつて或は細雨の非々となり或は秋風の
 蕭殺となり更に轉じて鶴姫狂亂の場となりては、
 峽蝶花に戯れ月前嫦娥の舞ふかと怪しむる、挿畫
 は筒井年峰子の丹青になりて、麗美島洋海波蒼きの邊、
 偉男兒橋上に凭りて睥睨すれば、四百餘州眼底に
 横はる、快絶始んど究まるの所、運筆愈々圓妙。



筒井 年峰 作
以心庵小説
 郵 實 價 六 十 錢

讀賣新聞なるものあり、大いに力を文學にいたす、
 往年賞を懸けて傑作をつくる、本書は實に其賞中
 にありて鏘々金石の聲を發するもの、智恩院の宮
 が幕府の専制を憤慨して、決然緇衣の袂を拂ふて
 立ち、仆幕の謀をめぐらしたりと雖も、災不測
 の裡に起り、空しく恨みを呑み玉ふいたはしと、
 天下何人が同情を表さる者やあらん。



懸賞小説
瀧口入道
水野年方
郵税六錢

花に戯れ月に浮かれ、横花一朝の榮に誇れる平家の世に、人骨を叩き肉を振りて天下を睥睨したる武士あり、瀧口時頼といふ、人は彼を没情漢といひ、解知らずと罵しりしが、此没情漢も遂に名姓横笛の色香に迷ひ、其情なかりし人を怨みて世を捨て、小松内府が知遇に育きたるも、一に戀の成す仕業なり、後年高野の山腹幽邃高雅なるの處、舊主維盛の來るに逢ひ、涙を揮つて諫言を奉り、空しく主君を海底の藻屑となしてより、身も遂に屠腹して死するに至る、義烈殆んど稀に見るもの、これ日就耐懸賞小説當年唯一の傑作と稱せらる。

おあき

水野年方
郵税六錢

澁村園鑿州の近作、戦勝の餘威を借つて、日出國の旗幟天に冲するの所、一美人一兵士あり、情緒纏綿、言ふ可くして言ふ能はざるの妙趣、隨如として紙上に充つ。



石橋忍月
郵税六錢

若殿様の可笑しき、眞士通信の不思議なる、戦話断片の勇ましき、訥重曹の哀れに面白き筆端走る所電靈之れに乗ず、忍月居士近世の傑作。

浄瑠璃阪

小橋忍月
郵税六錢

牛門浄瑠璃阪の奇談、江戸川の流と共に今に傳はりて、江湖幾万人の喝采を博す、義人烈士妖女美人、忽ちにして劍撃忽ちにして軟語、一讀巻を捲ふに忍びず。

血の涙

高岡永洗
郵税六錢

我日の本の櫻の花を移し植えたる金州城に、一男兒の血精花の如きあり、金石大尉といふ、事あり時を憤慨して空しく自刃す、遺族妻を隔て、本國に在り、日に大尉の凱旋を待つ、燕雁幾たびか去來すれども主は歸らず、鬼の如き老婆の苦しむる所となり、悲痛慘憺たる狀人をして酸鼻に堪へらしむ。

海戦日録

海軍大尉子爵
小笠原長生
郵税六錢

海軍大尉子爵小笠原長生氏は金波樓主人として深く文事に精通す、黄海の役より戦局平定に至るまで、軍艦高千穂の分隊長として激戦數回、其自ら經歷したるの快事を筆にしたるもの、我帝國の海軍史と雖も、精通これに優る事能はざらん、

海戦史

川崎紫山
郵税六錢

海戦日録は軍事上の觀察を以て筆を走らし、海戦史は歴史的的政治的眼光を以て觀察す、海戦其者に至りては異なるなしと雖も、觀察の相違は筆端に於いて雲泥の差あり、見よ海戦尤も激甚なるの所、筆鋒愈々奇烈なるを。

陸戦史

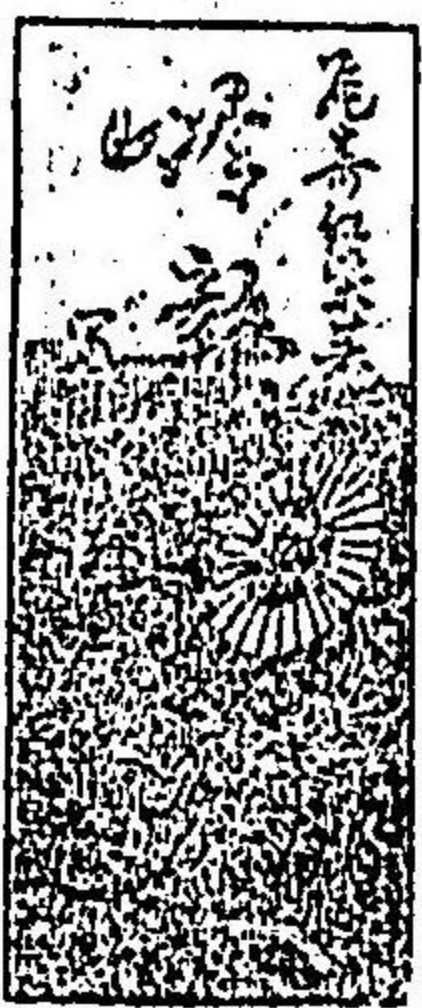
川崎紫山著

柴山川崎三郎君、東洋の風雲を驅つて鷲林に航し、軍に平壤に従ひて得るところあり、爾來久しく京城に止まりて時事を觀察し、歸來筆をばせて我國民の爲に陸戦史を草す、混成旅團の出發より全軍宇品に凱旋する迄、巻を披けば握夾として冷風面を撲ち、耳を塞げば陰雷轟き、眼を覆へば兵馬勇々、これ日清戦史中の玉麒麟。



全 琴 齋 居士 作
二 冊
實 價 八 錢
郵 稅 八 錢

他はこれ東海日出國の海男兒、一はこれ扶桑神州の一健兒、一は海軍に一は陸軍に、兄弟相携へて國難にあたり、尤大國を環破して、神州の威入荒に振ふの時、列國の猜みは端なくも大戦亂となりて、扶桑國の健兒悉とく奮ひ立つ、此時にあたり身を抛つて敵の火藥庫をやき、奇策を逞て、水雷を用ひ、終に敵將を城艦に罵しり、錦旗を擲して城下の盟をなさしむるに終る、楡絶快絶、踊躍處を失はしむるに至りて止む。



尾崎 紅葉 作
富岡 永洗 作
實 價 六 錢
郵 稅 六 錢

手を離せば風となり手を覆へば雨、冷熱の奇嬌なるは其表題の奇なるに優る、紅葉山人百餘種の著述の裡、自ら許す所のもの、又喋語の用ゆ可きなし。

小弓御所

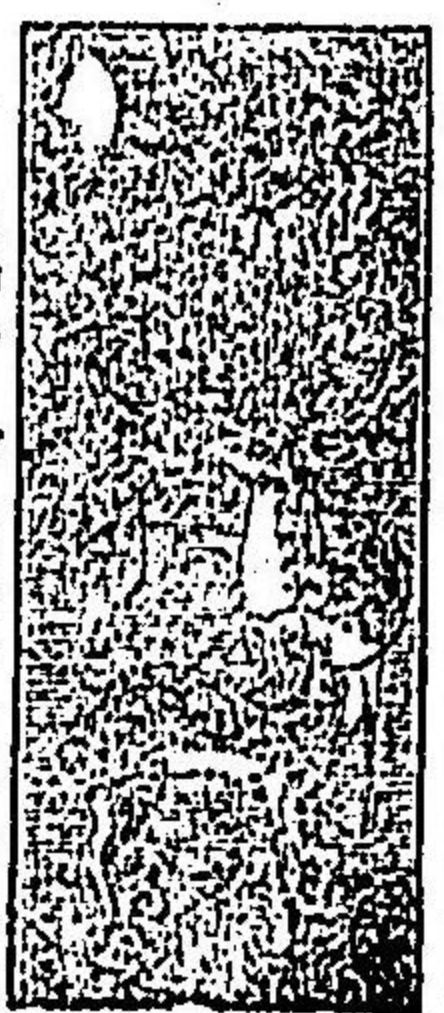
村井 琴齋 作
全 二 冊
實 價 三 十 八 錢

飛箭驚鳩を射つて曹司佳人を得、老賦知遇に感じて山中より立つ、これ實に本書の骨子にして、佳人道を失して千丈の谿谷に陥り、才子反賊の毒手を避けて他邦に流浪す、鳩遣の姫が哀れに物悲しき、義弘が娘の不倫千古に絶したる、或は義兵を起して曹子三軍を叱咤し、奸賊國を賣つて豺狼の頸使に從ふ、千變萬化端倪すべからざるものは實に弦齋居士の筆なり。

壽王冠者

松居 松葉 作
鈴木 華 郵 齋

清風吹いて万籟漸く起り、月明に秋高き處、劉曉たる笛聲は露と腰よげの尾花の邊より來り、暗に君を待つ想夫戀の琴曲に通ふもの、如し、彈する調への主は問は無くも、情を送る笛の音は、いつれの御曹子が風流韻事の優にやさしきさびなるらん、本篇實に此一場の雅韻を以て始まり、或は龍虎相戦ひ或は百花妍に誇る、然して其終局する處は、茅庵一人老を啣つた誠なるか、鶯鶯合歡の喜びとなるか、讀者を活殺する大文字は、松居松葉子の健筆を以て描かれたり。



水野 楠園 作
實 價 六 錢
郵 稅 六 錢

一は紅顔の美少年、一は妙齡の少女、兄妹思を凝して仇敵を求むるの間、悪徒の毒は端より甚だしく、善人くるしみ悪人さかふ、天は殆んど情なきに似て然り涙あり、風吹き雲散するの時、天日再び光を恣まうにして、飛箭あり仇氏を亡ぼす、これ人生正に然るべきの道なり。

惟任日向守

三島 雫窓 作
實 價 四 錢
郵 稅 四 錢

本能寺深淵幾尺、未だ東雲の霧破りて、颯と柳曳く一旅の旗は桔梗の紋所、信は日向奴といふ間も運し、日頃の憤恨發して萬丈の炎となり、鬼神と稱せられる右大臣を殺したる英雄の胸中、今其人來り其志を述ぶるが如く、讀去り讀來りて感歎頗なり。

小説家

村井 琴齋 著
全 二 冊
實 價 三 十 八 錢

小説家小説家を作る、何んぞ尋常一般の小説として見るを得べけんや、本篇の主人公筆の舍余麻利は、元より假設の人物たりと雖も、天下豈此の如きの人なしとせんや、著者は此の如きの人を取り、此の如きの人を主人公として本篇を著す、著者が奈麻利なるか奈麻利が著者なるか、并は本篇を一讀して始めて知るを得べし。

水の聲

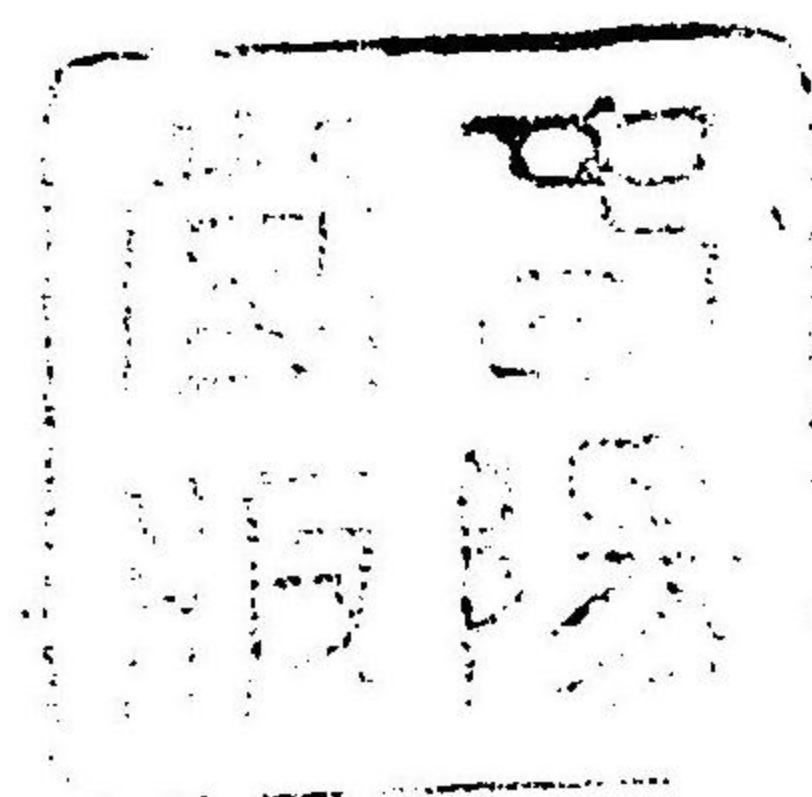
江見 水陸 著
實 價 三 十 六 錢
郵 稅 六 錢

これ水陸子の傑作數十種をあつめたるもの、題して水の聲といふ、或は豪邁不屈の男子を以て主人公としたるあり、或は風にも堪へぬ幼婦を説きたるものあり、分けて岩屋城の奇なる、曉が浦のちもしるき、水の聲の潺々として絶えざるは、其妙味と共に悉る事なり。

新刊豫告

<small>眉山著 桂舟齋</small> 暗潮	<small>紅葉著 桂舟齋</small> 青葡萄	<small>颯州著 桂舟齋</small> 北條早雲	<small>眉山著 眉方齋</small> 大村少尉	<small>柳浪著 年峯齋</small> 一人娘	<small>麗水著 永洗齋</small> さんご時雨
<small>櫻痴著 燕窓齋</small> 秋の夕暮	<small>風流翁著 華邨子齋</small> 名人逸話	<small>末松謙 澄補綴</small> 異郷之友垣	<small>春の舎 主人著</small> 牧之方	<small>森鷗外 漁夫著</small> つなき草	<small>橋本武 子著作</small> 日本歴史
<small>正太夫著 桂舟子齋</small> 門三味線	<small>水陸著 永洗齋</small> かまわぬ坊	<small>麗水生著 淺井忠齋</small> 月夜鴉	<small>上野義 八郎著</small> 發明家	<small>三味著 永洗齋</small> いかくり姫	<small>蘆村著 永洗齋</small> 笠の露

JH2Q-39



100

911.19

H 867m

087897-000-3

911.19-H867m

名人逸話

風流翁/著

M29

DBF-0267

